

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：グローバルキッズ大倉山園	種別：認可保育所			
代表者氏名：上野 智子	定員（利用人数）：72名 （利用者:63名）			
所在地：〒222-0037 横浜市港北区大倉山3-58-13				
TEL：045-947-3320	ホームページ：http://www.gkids.co.jp			
【施設・事業所の概要】				
開設年月日：2020年4月1日				
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社グローバルキッズ				
職員数	常勤職員：14名	非常勤職員：6名		
専門職員	園長	1名	主任	1名
	保育士	12名	栄養士	2名
	看護師	1名	調理師	1名
	保育・調理補助	1名		
施設・設備の概要	保育室	2	トイレ	14
	調理室	1	事務室	1
	園庭	1		

③理念・基本方針

【企業理念】子どもたちの未来のために  
【保育理念】豊かに「生きる力」を育てる

【保育目標】

- ① 子どもの存在や思いを受容し誉める
- ② 自分を自由に表現できる子ども
- ③ 自分で考え自分で行動できる子ども

【保育方針】

- ① 子どもを受容し誉める保育を行う
- ② 子どもの個性を尊重し人との関わりを大切にされた保育を行う
- ③ 子どもの主体性を育む保育を行う

④施設・事業所の特徴的な取組

①誉める保育・・・「誉める=子どもの存在を肯定し認める」と捉えています。保育者は、子どもに対して手を叩いて「誉める」を伝え、「出来た!」「嬉しい」「頑張った」と子どもの自信と次への意欲を育てるとともに、子どもの思いを受容し子どもに共感の思いを伝えます。そこから子ども自身が「自分は素晴らしい存在である」ことを感じ、自己肯定感を育てていきます。

②異年齢保育・・・2階フロアは、0歳児～1歳児、3階フロアは2歳～5歳児の異年齢保育をワンフロアで行っています。学年の枠にとらわれず、個の発達段階を大切に、複数の保育者や大勢の異年齢の子どもたちとの関わりを大切にされた保育を行っています。そんな関わりの中で子どもが自分を自由に表現し、年齢やそのほかどんな違いも自然と受け入れ、ともに育ちあう関係や環境を大切にしています。また、異年齢の子どもたちの中で、自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、相手の思いも大切にできるようになる事、何気ない生活の中でお互いに助けたり助けてもらったりの経験を繰り返し、人への信頼感や人との協調性、人への愛情を経験を通して身につけていく事も大切にしています。

③子どもの主体性を育む保育・・・子どもが本来持っている「育つ力」「伸びる力」の芽を摘まないように、大人が手や口を出し過ぎず見守り、子どもの主体性を大切にしています。子どもが「生きる力」を獲得していくために、生活や遊びにおいて常に保育者の指示を待つのではなく、子ども自ら好きな遊びを選択し、自分の意思で遊び始め、そして集中（熱中）出来る人的・物的環境の提供が大切だと考えています。このような日々の繰り返しの中で、子どもたちは誰かの指示を待つ受動的な姿勢ではなく、自ら考えて生活が出来るようになっていくと考えます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月23日（契約日）～ 令和5年2月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子ども一人ひとりに対応するため、職員間の情報共有が図られています  
日々の保育で把握した子どもの様子、家庭からの連絡事項や保育についての意向など、様々な情報を園全体で共有することに努めています。園では全職員がフロア、クラスの関係なく、全園児を見て一人ひとりに応じた保育を提供することを大切にしています。そのため、各種会議を通しての話し合いだけでなく、常に職員間でコミュニケーションをとるようにしています。事務室のホワイトボードを使って、月毎にテーマを決めて日々の活動や子どもの様子、保育で気づいたことを職員が随時書き込んでいく保育ウェブの取組も互いの情報交換・共有ツールとして役立てています。

2)ワークライフバランスに配慮した就業環境が整っています  
月単位に労働時間を調整する変形労働時間制で、職員自身の希望する働き方への配慮がされています。そのため残業時間も月1～2時間程度に抑えられており、計画的な休暇の取得ができています。また、アンバーサリー休暇、いつでも休暇、孫の誕生休暇など取得しやすい休暇制度が設定されており、休暇取得促進の一助となっています。そのほか、産休・育児休暇明けの働き方として、子どもの小学校卒業までは時短勤務に対応するセレクト社員制度などもあり、職員のワークライフバランスに配慮しています。

3)異年齢保育を通じて、成長し合える保育を実施しています  
2階フロアは、0歳児～1歳児、3階フロアは2歳～5歳児の異年齢保育をフロアごとに行っています。年齢の枠にとらわれず、個の発達段階を大切に、複数の保育者や大勢の異年齢の子どもたちとの関わりを大切にされた保育を行っています。子どもたち

はその中で、他の子どもが取り組んでいることに興味を持ち、自分もやってみようという意欲や協力や、時には手伝うなど他児に対する思いやりの気持ちが育まれています。職員は、一人ひとりの取組を誉め、認められた喜びとともに自己肯定感が育まれるように取り組んでいます。

#### 4)子どもの主体性を大切にした保育を実践しています

子どもは、年齢に関わりなく興味を持ったことをやってみたいという気持ちがあります。園では、保育者が『～をさせる』という方法ではなく、子ども自身が『～をする』という子どもの主体性を大切にして日々の保育にあたっています。子どもたちは、自らがやってみたい事に挑戦できる環境のなかで、できた達成感や満足感を得て、さらに次へ繋げる意欲が持てるようになっていきます。保育士は子どもの気持ちに寄り添い、個々のペースを尊重し、子どもの可能性を広げられるような関わりをもつようにしています。

#### 5)実習生やボランティアの受け入れについて、積極的な取組を期待します

マニュアルが整備されており、それぞれ法人が窓口となって実習生やボランティア等の受け入れ体制が整えられています。開園から3年目、更にコロナ禍での開園ということもあり、現在まで実習生の受け入れは1件のみの実績となっています。実習生の受け入れは福祉人材を育成するうえでの保育所の社会的責務の1つであり、職場体験等での地域の学校教育への協力は社会福祉の専門的な知識をもつ社会資源である保育所の役割の一つとして考えられます。今後は状況に応じた積極的な受け入れが期待されます。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園して三年目となり第三者評価を受けるにあたり、全職員で運営や自分たちの保育について一つひとつ丁寧に振り返り、意見を交わし合い、そして見直す機会を持つことが出来ました。話し合うことで、さらに保育についての考えが深まり、職員同士知り合える機会にもなりました。そしてそこから職員間の連携の強化、保育の方向性の再確認へと繋がっていきました。また普段何気なく行っていることが、こんなにも素晴らしい意味を持つことだったと気づかされ保育者が自信を持つことが出来たり、今後取り組んでいくべき課題が見えてきたりと今回の受審の成果は大きかったと思います。

受審に際してご協力いただいた評価機関、評価調査者の方、およびアンケートにご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり